


JForest 栃木県森林組合連合会機関紙

発行／栃木県森林組合連合会
 住所／宇都宮市西一の沢町8番22号
 ☎028-637-1450 FAX028-637-1454
 URL/http://www.tochimori.or.jp
 E-mail/info@tochimori.or.jp



第352号



令和8年 新年を迎えて

栃木県森林組合連合会代表理事会長 佐藤和之



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

系統森林組合員の皆様方には、平素より県森連の事業推進に格別のご理解とご支援を賜り、深く感謝いたしております。

昨年は、ウクライナ情勢の長期化や中東地域の緊張の高まりなど、国際社会が依然として不安定な状況にある中、国内では新米の高騰をはじめとする物価上昇が大きな影響を及ぼした一年となりました。また、栃木県では61年ぶりに「全国森林組合職員連盟全国研究集会」が開催され、組合系統としても大きな盛り上がりを見せた年でもありました。

一方、近年は住宅着工の減少や担い手不足の深刻化など、林業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。こうした中、共販事業では木材価格に変動があったものの、円安による輸入材価格の高騰などにより平均価格は14,795円/㎡、年間取扱量は211,433㎡といずれも前年を上回り、取扱量は過去最高を記録いたしました。これは、組合員の皆様の計画的な出材や品質向上、さらには直送へのご理解とご協力の賜であり、改めて深く感謝申し上げます。

私たち森林組合系統は、「JForestビジョン2030」に基づき、地域森林の適切な利用・保全と林業経営のさらなる発展に向けた取組を加速させております。令和7年度はビジョンの折り返しの年にあたり、令和8年度からの後半5年間にに向けた見直しに際しては、花粉症対策としての主伐・植替促進、DX化の推進、福利厚生充実、女性活躍を促す組織体制の整備などを明確に位置づけ、計画的に強化していくことが重要となります。これらの取組を着実に進めることで、令和12年に掲げるビジョンの目標を確実に達成できるよう、系統一丸となって取り組んでまいります。

また、目標達成に向けては、現場を支える人材の育成・確保がこれまで以上に重要となります。令和7年度から開始された林業技能士制度を活用し、技能の向上や社会的地位の確立、安全確保を図ることで、現場で働く方々の意欲向上にもつながるものと期待しております。そして、林業の基盤である安全の確保を最優先に、引き続き安全管理の徹底をお願い申し上げます。

結びに、令和8年は丙午の年であり、「勢いよく前へ進む」「新たな挑戦に踏み出す」ことを象徴する一年とされています。本年が、皆様にとりまして情熱と活力に満ちた飛躍の年となりますよう心より祈念申し上げますとともに、引き続き変わらぬご支援とご協力をお願いいたしまして新年のご挨拶といたします。

政策要望活動の実施

令和7年度は、森林整備推進支援強化の要望を栃木県林業団体連絡協議会(会長:佐藤県森連会長)から福田知事に対して行ったほか、令和8年度林業政策の要望を県選出自民党国会議員に対して行いました。

	要望内容	要望先	実施者
9月1日	令和8年度県林業施策並びに予算に関する建議・要望	福田知事	佐藤会長、佐橋専務、林業団体連絡協議会役員他
10月21日	令和8年度林業施策・予算に関する要望	栃木県選出自民党国会議員	佐藤会長、植竹副会長、佐橋専務



福田知事に要望する林団連役員他

全国森林組合職員連盟 全国研究集会 栃木県で開催

令和7年9月11日(木)・12日(金)、ライトキューブ宇都宮にて「全国森林組合職員連盟 全国研究集会」が開催されました。

本研究集会は、森林組合系統の連携強化と発展を目的に全国各地で開催されており、栃木県での開催は61年ぶりとなりました。

開会にあたり、全国森林組合職員連盟白木会長による主催者挨拶の後、林野庁林政部経営課 加藤課長補佐、栃木県環境森林部 齋藤部長から来賓として祝辞をいただきました。最後に栃木県森林組合連合会 佐藤会長より歓迎の挨拶がありました。今回の研究集会には、全国から170名の組合系統関係者の皆様にご参加いただきました。



挨拶する佐藤栃木県森連会長

開催テーマは「2025国際協同組合年とJforestグループの取組」

今回の開催テーマである「2025国際協同組合年とJforestグループの取組」のもと、一般社団法人日本協同組合連携機構 主任研究員阿高氏が「国際協同組合年に考える協同組合の期待と役割」と銘打ち基調講演を行いました。

2025年が再び「国際協同組合年」に定められ、世界的に協同組合間連携が改めて注目されています。組合員の効果的な奉仕と協同組合運動の発展に向け、今後も検討を続けていくことが必要であると講話をいただきました。

続いて、全国から選ばれた那須町森林組合、南都留森林組合、大隈森林組合が協同組合連携事例を報告しました。それぞれの森林組合が独自の事業で各種協同組合との連携を図りながら「森林組合」の知名度向上に努めていました。

この他、「琴の音ネットワーク」の活動紹介や2025ミスみどりの大使による1年間の活動報告を含めた特別講演が行われました。

那須町森林組合(栃木県) 益子朋之 氏



那須町森林組合は、那須町の経済4団体(那須町商工会、那須町観光協会、森林組合、那須野農業協同組合)が連携しブランド化推進事業を実施。町内にある未利用資源を調査・活用して、特産品開発や観光関連産業などの創出と情報交換、連絡調整を行っています。地元的那須九尾祭りを盛り上げることで「森林組合」の知名度向上を目指しています。

集会終了後には懇親会を開催し、参加者の皆様に栃木の魅力を味わっていただくため、各森林組合よりご寄贈いただいた地酒や宇都宮餃子を提供しました。余興として「森のハーブ弾き」阿久津氏による演奏も行われ、和やかな雰囲気の中で交流を深めるひとときとなりました。

2日目には、令和6年に開校した栃木県林業大学校の見学、さらに日光東照宮の拝観を行い、栃木県の林業教育と文化に触れる機会となりました。

2日間にわたり、全国森林組合全国研究集会にご参加・ご協力いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。



県内森林組合より提供された地酒



国産材ハーブの演奏



林業大学校見学



日光東照宮の拝観

第30回全国森林組合大会を開催（国際協同組合年記念）

令和7年10月21日(火)、東京・銀座ブロッサム中央会館にて「第30回全国森林組合大会」が開催されました。本大会は国際協同組合年を記念し、全国森林組合連合会の主催によるものです。

大会では、功労者表彰や感謝表彰が行われ、多くの方々が受賞されました。とりわけ、前会長の江連比出市氏が会場にて林野庁長官より感謝表彰を受けました。

受賞された皆様の長年にわたるご功績に深く敬意を表するとともに、心よりお祝い申し上げます。

林野庁長官表彰 感謝表彰

前代表理事会長 江連比出市



林野庁長官表彰 優良組合表彰

那須町森林組合

全森連会長表彰 感謝表彰

職員

みかも森林組合

小林哲朗

栃木県森林組合連合会

福田成芳



職員

栃木県森林組合連合会

半田新也

栃木県森林組合連合会

室井文昭

作業班員等

那須塩原市

櫻井将男

那須町

菊地裕一

那須町

千葉孝之

粟野

牧島正幸

芳賀地区

磯活也

各種研修の開催について

県森連では、森林組合の指導事業の一環として、役職員を対象にさまざまな研修会を開催し、組織運営力や事業推進力の向上に取り組んでいます。

令和7年7月15日（火）には「理事監事研修会」を開催しました。講師には、林野庁林政部経営課の高木課長補佐、栃木県環境森林部林業木材産業課の大森副主任幹をお迎えし、森林組合役員に求められる役割やガバナンスの重要性、今後の森林・林業政策の方向性などについてご講演いただきました。参加者からは、組合運営に対する理解が深まったとの声が寄せられました。



理事監事研修の様子



意見交換会研修の様子

また、今年度の新たな取り組みとして、令和7年12月15日（月）には「森林組合職員による意見交換会」を開催しました。テーマは「立木証明」。各森林組合の担当者にご参加いただき、証明書発行に関する実施方法や現場での課題、制度運用上の改善点などについて、活発な意見交換が行われました。実務に携わる職員同士が率直に意見を交わす貴重な機会となりました。

さらに、本年度も「トップマネジメント研修」を実施しました。本研修では、群馬県森林組合連合会の田村販売課長を講師にお迎えし、群馬県における販売事業の先進的な取り組みについて詳しくご講話いただきました。

田村課長からは、地域の需要変化に対応するための素材販売方法の多角化や、流通の効率化と競争力強化を目指す流通改革の重要性が示されました。従来のメールやFAXを中心としたやり取りから、迅速で正確な情報共有を可能にするクラウドシステムへの移行、さらに取引の透明性を高めるWEB入札システムの導入など、デジタル技術を活用した業務改善の実例が紹介されました。

また、販売戦略については、「共販か直送か」という二者択一ではなく、両者の利点を柔軟に組み合わせるハイブリッド戦略が、地域の実情に応じた最適な販売体制の構築につながるという提案がありました。これらの内容は、今後の県内森林組合の販売事業を検討するうえで大変参考となり、参加者からも高い関心が寄せられました。

県森連では今後も、県内森林組合が連携し、系統全体の事業強化につながるよう、実務に役立つ研修や情報共有の場を積極的に設けてまいります。

共販開設70周年記念 令和7年度栃木県優良木材展示会を開催

共販開設70周年記念令和7年度栃木県優良木材展示会が鹿沼木材共販所（11月13日）、矢板木材共販所（11月28日）、大田原木材共販所（11月20日）において栃木県との共催により開催されました。

展示会の開催は関係森林組合のご尽力はもとより、組合員の皆様をはじめとします関係各位のご協力の賜物です。心より感謝申し上げます。



優良材の展示（大田原木材共販所）

結果概要

会場	月日	数量(m³)		販売率(%)	販売金額(千円)	販売単価(円/m³)	応募者数
		出荷数量	販売数量				
鹿沼	11/13	2,645	2,645	100	40,542	15,328	45
矢板	11/28	2,528	2,528	100	37,637	14,885	43
大田原	11/20	3,865	3,865	100	66,031	17,083	58
合計		9,039	9,039	100	144,210	15,955	146
前年		11,068	11,068	100	182,251	16,467	167
前年比(%)		82	82	100	79	97	87

受賞者のご紹介

入賞者は掲載の方々です。受賞おめでとうございます。

農林水産大臣賞

銘 柄	出品者	森林組合
ヒノキ 中丸太	齋藤 治秀	たかはら

林野庁長官賞

銘 柄	出品者	森林組合
スギ 中丸太	阿久津 公寿	那須町

栃木県知事賞

銘 柄	出品者	森林組合
スギ 中丸太	大貫 和裕	鹿沼市
スギ 大丸太	小嶋 照彦	たかはら
スギ 中丸太	大島 阿希子	那須町

関東森林管理局長賞

銘 柄	出品者	森林組合
スギ 小丸太	(有)高見林業	栗野
スギ 中丸太	齋藤 俊作	日光市
スギ 大丸太	蓮実 清子	大田原市

栃木県森林組合連合会長賞

銘 柄	出品者	森林組合
スギ 大丸太	北山 貴志	日光市
スギ 小丸太	湯沢 広	日光市
スギ 中丸太	菱倉 伊望	みかも
スギ 小丸太	鷹峯 均	日光市
スギ 小丸太	渡邊 康浩	日光市
スギ 中丸太	齋藤 之一	日光市
ヒノキ 小丸太	齋藤 和夫	たかはら
スギ 大丸太	星野 明美	たかはら
スギ 小丸太	神長 郁太郎	たかはら
スギ 小丸太	佐賀 直通	たかはら
ヒノキ 大丸太	横松 祥太郎	那須町
スギ 小丸太	蓮實 芳守	大田原市
ヒノキ 小丸太	那須町	那須町
スギ 小丸太	白井 信一	那須町
スギ 小丸太	那珂川町	那須南
スギ 大丸太	菊池 格	大田原市

銘 柄	出品者	森林組合
ヒノキ 大丸太	枝村 洋子	日光市
スギ 小丸太	牧島 俊男	栗野
ヒノキ 小丸太	福手共有林代表 松原 重壽	芳賀地区
スギ 大丸太	小林 哲朗	みかも
ヒノキ 中丸太	小杉 正昭	栗野
ヒノキ 中丸太	阿部 英一	宇都宮市
スギ 大丸太	高柳 俊男	たかはら
スギ 中丸太	齋藤 岩吉外8	たかはら
スギ 小丸太	木村 志江	たかはら
スギ 小丸太	渡邊 千代子	たかはら
スギ 小丸太	蓮實 常夫	大田原市
スギ 小丸太	那須塩原市	那須塩原市
スギ 小丸太	和地 秀美	那須南
スギ 大丸太	笹沼 保治	大田原市
スギ 小丸太	岡田 学	那須南
スギ 中丸太	大田原市 須賀川財産区	大田原市

国有林野の山土場活用委託販売開始

令和7年度より、国有林野素材の山土場活用委託販売を開始しました。山土場に極積した物件を買受業者に確認していただき、矢板木材共販所にて入札を行う方式で全2回の販売を行いました。

販売を進めるにつれ、買受業者のニーズに合った造材や極積、山土場周辺の情報収集、山土場の許容量と搬出のバランスなど検討課題が明らかになりました。今年度の課題を踏まえ、次年度も引き続き取組を進めていきます。

	日時	樹種	数量(m³)	売上(千円)
第1回目	10月31日	スギ・カラマツ	247.378	3,460
第2回目	11月27日	スギ・カラマツ	555.770	7,622
合計			803.148	11,082



山土場活用委託販売の様子

下刈り作業の省力化等を図るための除草剤散布検証について

県森連では、令和4年度にスマート林業化促進の一貫として、運搬用・薬剤散布用ドローンを導入し、苗木や獣害対策資材運搬、薬剤散布の業務委託をいただくなど、徐々に活用を進めてきました。

県森連では栃木県から委託を受け、再造林後の下刈り作業の省力化を図るため、ドローンを活用した除草剤散布について、植栽状況に応じた効果の持続性などの検証を行っております。令和7年度は、県内10市町において除草剤散布を実施し効果を検証するとともに、土壌と水質に与える影響についても調査を行いました。

〔薬剤の効果の検証〕

使用薬剤：ザイトロンフレノック微粒剤

散布日：

令和7年8月21日

場所：

宇都宮市篠井



散布前 撮影日：令和7年6月4日



散布後 撮影日：令和7年9月24日

検証の結果、散布から1年経過した植栽現場においては、苗木の2/3程度が露出している状態であり、薬剤による抑草効果が見られました。特につる草類に対し、強く抑草効果が見られました。

このことからドローンによる薬剤散布が下刈りやつる切りといった育林作業の省力化に大変効果的であることが実証されました。

〔薬剤散布1年後の状況〕

散布日：

令和6年9月10日

植栽内容：

スギ3年生

場所：

宇都宮市福岡町



散布日 撮影日：令和6年9月10日



散布後 撮影日：令和7年8月20日

今後も検証を継続して進めて、ドローン活用への効果をモニタリングし、林業の省力化・効率化の推進に努めてまいります。

薬剤散布ドローンのオペレーター研修会の開催について

栃木県内のドローンによる除草剤散布については、県森連の他に2森林組合、1民間林業事業体の合計4社が行っております。除草剤散布を実施する前に安全かつ効果的な散布ができるように県森連が主催して令和7年7月23日に研修会を開催しました。

研修会には栃木県をはじめ、各事業体のオペレーターや薬剤メーカーが参加し、ドローンによる安全で効率的な薬剤散布の方法や薬剤情報などの意見交換を行いました。

今後も研修等の機会を設け、県内全体として効率的なドローン活用への連携強化が行えるよう、事業を推進してまいります。



研修現場：塩谷町



オペレーター研修の様子

スマート林業推進事業 未来技術導入・検証事業を推進

木材の需要や森林整備に対応するため、林業の現場で働く人の負担を減らし、安全で効率的な作業を行えるよう、自動化機械などの新しい技術を実際に使いながら、その効果を検証します。県森連は県の協力のもと、検証試験の結果の取りまとめを行うとともに、研修会や実演会を開催し、スマート林業技術の普及啓発に努めています。

ラジコン式伐倒機「シン・ラプトルⅡ」研修・実演会 / 場所：那須町伊王野

急傾斜地の林地においても人手に頼らず伐倒作業を行って、人身事故の発生を撲滅する目的で開発され、車両操作は全てモニターの画像を見ながらラジコン式のコントローラーで行います。



クイックカプラーシステム（オイルクイック）研修・実演会 / 場所：鹿沼市板荷

重機の運転席に座ったまま現場で油圧アタッチメントを交換できるシステムです。実演ではバケットをフェラーバンチャに付け替えを行い、オイル漏れなどなくスムーズに作業ができました。



油圧集材機・架線式グラップルによる集材システム研修・実演会 / 場所：那須町伊王野

架線集材システムは、架線式グラップルの2本爪で木材を掴み搬出します。3本のワイヤーを貼ることで上下だけでなく左右にも移動が可能です。



しいたけ原木の配送が開始



令和7年12月下旬に大分県から入荷した原木

令和8年1月になり、本年分の配送を開始しております。今後もより多くの生産者様に配分できるよう、調達や検品等を行ってまいります。

さらに、一日も早く県内産の安全な原木を生産者にご利用いただくため、県内原木林の萌芽更新や植栽による再生に向けた実証的な取組も引き続き行ってまいります。

東日本大震災に伴う原発事故から10年以上が経過しますが、県内のしいたけ原木林は広範囲に汚染され、依然として安全な原木の需要を賄える状況にあるとは言えません。

そのため県森連では、平成24年から引き続き、安全、安心な原木を供給するため、西日本産原木を中心に県外からしいたけ原木を移入しています。令和6年から7年にかけては、全国森林組合連合会を通じて大分県、愛媛県、熊本県から約13万本の原木を調達しました。



検品配送される原木



「緑の雇用」による人材育成研修の実施

「緑の雇用」事業は、新規就業者を対象に必要な知識や技能を向上させることを目的として林野庁が創設した事業です。

栃木県での研修実施は、FW及びFL集合研修、経営体の取りまとめ、監督検査を栃木県森林組合連合会、安全指導を林災防栃木県支部が分担して実施しています。

この研修のうち、就業経験の少ないFW（フォレストワーカー）に対しては、現場での林業作業実習に加えて、資格取得を行い、年次に応じて様々な技能を身につけていただきました。

さらには林業ICTとして、ハーベスタシミュレーター、ドローンを活用した測量・森林調査などの最新機材も活用しました。

令和7年度の集合研修は皆様のご協力のもと、12月までに全日程を終了しました。

さらに、FW研修生を指導する人材として、班長クラスのFL（フォレストリーダー）や総括現場責任者のFM（フォレストマネージャー）などの育成も並行して進めていきます。FL研修については、茨城県の受講生1名も受入れて実施しました。合計58名の方々に研修に参加いただきました。

「緑の雇用」研修事業の取組結果

（単位：人）

事業体名	TR研修	FW研修			FL研修	FM研修
		1年目	2年目	3年目		
たかはら森林組合			1	1		
栗野森林組合	1	1				
那須町森林組合	1	3	1	2	3	
鹿沼市森林組合	1		2	2		
那須南森林組合				1		
大田原市森林組合	1	2		1	1	1
芳賀地区森林組合	1			1	2	
みかも森林組合						
日光市森林組合	3	2	1	2	1	
その他民間事業体	5	7	2	1	3	1
計	13	15	7	11	10	2



下刈り実習 (FW1)



伐倒・造材実習 (FW2)



高性能林業機械実習 (FW3)

「林業就業支援講習会」（1日コース・体験コース・実践コース）の開催

意欲と能力のある林業就業希望者を確実に確保するため、厚生労働省より委託を受けている林業就業支援講習を開催しました。今年は1日コース、3日間の体験コース、長期の実践コースの3本柱で開催しました。



まず体験コースは、6月23日から25日の3日間で10名の参加者のもと、手鎌による下刈りや植栽などの林業体験、製材作業中の現場と製材工場、木材共販所を見学しました。

1日コースは、7月18日に10名が参加して、森林組合と木材共販所を見学しました。

実践コースは、9月24日から10月16日にかけて7名の参加のもと、林業就業に必要な基礎知識やチェーンソー・刈払機の資格取得、林業作業の実践を行う12日間の講習を実施しました。

実際の林業現場に足を運ぶことで、気温や傾斜を体感いただき、作業を体験することで、林業就業イメージのミスマッチを少しでも軽減できると思われます。受講生にとって本講習が林業を知るきっかけになっていると幸いです。

県民の森のコーナー

「たかはらの森管理グループ」（栃木県森林組合連合会、たかはら森林組合・高原林産株式会社）は、栃木県県民の森の指定管理業務を平成25年4月1日から開始し、令和7年度で13年目を迎えています。

このたび、県民の森の次期指定期間(令和8年4月1日から令和12年3月31日まで)の5年間につきましても、引き続き指定管理者として管理運営を行うこととなりました。これまで培ってきた経験と実績を活かし、ご来場される皆様に安心して県民の森をご利用いただけるよう、スタッフ一同、万全の体制で接客・運営に努めてまいります。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



令和7年度は県民の森、山の駅たかはら、森林の駅もみじ谷大つり橋の3施設合同による「森へ行くよスタンプラリー」を、7月から8月にかけて実施いたしました。今後も周辺施設との協力関係を大切にしながら、たかはらの森のさらなる活性化に努めてまいります。

イベントの運営につきましては、人気の高いコケ玉作りや藍の生葉染め体験などを継続して実施しており、多くのお客様からご好評をいただいております。

さらに、令和7年度から夜の昆虫観察を実施したり、新型コロナウイルス感染症の影響によりこれまで実施できなかったアウトドア料理体験を再開するなど、今後もお客様に楽しんでいただけるような新たなイベントの企画・実施に取り組みます。

最後に、令和8年度はキャンプ場のリニューアルが目玉となっています。これからも栃木県の豊かな自然を体験できる場として、県民の森を提供できるよう職員一同、努めてまいります。

県民の森では、栃木県の傷病野生鳥獣救護事業の一環として、傷病野生鳥獣の野生復帰を目的とした飼育保護を行っています。路上での自動車との接触など人為的な原因により傷病した野生鳥獣を救護し、獣医師による診療や県民の森における治療・リハビリテーションを通じて、野生への復帰を目指す活動に取り組んでいます。

県民の森 森林展示館では、傷病鳥獣救護活動に関するパネル展示を実施しております。ご来館の際は、ぜひお立ち寄りください。

また、栃木県と那須どうぶつ王国の共同プロジェクトとして、関連グッズの販売も開始されました。売上の一部は、傷病野生鳥獣救護事業の取り組みに活用されます。詳細につきましては、那須どうぶつ王国のホームページをご確認ください。



現在治療中の動物たち

【タヌキ】
頭部の負傷



【フクロウ】
左眼・左脚負傷
起立困難（脱力）